

I 学校教育目標		自ら学び行動する、心豊かでたくましい生徒の育成									
II 前年度に残された課題		III 本年度の重点課題		IV 来年度に残された課題							
・基礎学力の定着 ・授業におけるICT機器の活用 ・不登校支援サポートルーム「あかり」の適切な運用 ・生命を大切にすることの教育の充実 ・地域とともにある学校づくりの推進		①自分のペースで自分に合った学び方を選択できる個別最適な学びの推進。基礎学力の向上。ICT機器を有効に活用した授業づくり。 ②生きる力を育む。様々な学校行事の意義を教職員が共有し、同じ目標に向かって進める。自ら学び行動する生徒を育てる。 ③命の教育の推進。一人ひとりの個性や多様性を尊重し、誰もが挑戦・活躍・貢献できる機会を持つことで自己肯定感を高める。個性が発揮できる心豊かでたくましい生徒を育てる。 ④地域連携の意義を深め、地域とともにある学校づくりを進める。 ⑤学校行事の精選をはじめ、教職員の働き方改革を進め、教員がいきいきと生徒と向き合えるよう、楽しく働きやすい職場環境をつくる。		・基礎学力の定着 ・授業におけるICT機器の効果的な活用 ・不登校支援サポートルーム「あかり」の円滑な運用 ・生命を大切にすることの教育の充実 ・地域とともにある学校づくりの推進							
[1] 重点課題番号	[2] 具体的達成目標と評価指標	[3] 自己評価		[4] 外部アンケートの分析		[5] 自己評価		[6] 学校関係者評価			
	具体的に、何をいつまでに、どの水準まで、数値化	中間評価		児童生徒アンケート		保護者アンケート		最終評価(成果と課題)	課題の改善策等	評価者人数 5人	
	公表日 5月1日	評価日 11月18日	実施日 2月20日	実施日 2月18日	評価日 3月16日	公表日 3月24日	公表日 3月24日	評価日 2月20日	公表日 3月24日	公表日 3月24日	
	ホームページ 文書配布 説明会実施 その他	ホームページ 文書配布 説明会実施 その他	ホームページ 文書配布 説明会実施 その他	ホームページ 文書配布 説明会実施 その他	ホームページ 文書配布 説明会実施 その他	ホームページ 文書配布 説明会実施 その他	ホームページ 文書配布 説明会実施 その他	ホームページ 文書配布 説明会実施 その他	ホームページ 文書配布 説明会実施 その他	ホームページ 文書配布 説明会実施 その他	
①	・職員研修担当教員を中心に、個別最適な学びに向かうための授業改善を進める。 ・ICT機器を活用した授業の充実。教員への啓発、情報提供。 ・学校評価アンケートの設問「先生はわかりやすい授業づくりに努めている」への肯定的回答を向上させる。	B	生駒市中学校教科等研究会で実施されている各教科の公開授業を参観し、その様子を本校の教職員間で共有することにより、授業改善を進めている。また、ICT機器の活用については、新たに導入されるiPadの効果的な使用方法を中心に研修を深めている。	B	「先生はわかりやすい授業づくりに努めている」という設問に対し、88.7%の生徒が前向きな評価を示しており、本校の授業改善の取組が一定程度評価されていることがうかがえる。	B	「学校は、わかりやすい授業づくりに努めている」という設問に対し、69.3%の保護者が肯定的に評価しており、授業改善の取組が一定程度理解されていることがうかがえる。	B	公開授業の様子を動画で共有することで、個々の教員が自身の授業を振り返り、授業改善に生かすことができた。また、他府県における自由進度学習の取組についても情報共有を行い、実践の視野を広げることができた。一方で、授業改善の進捗状況には教員間で差が見られるため、わかりやすい授業づくりをテーマとした研修を、今後さらに充実させていきたい。加えて、新しく導入されたiPadを活用した、より効果的な授業実践を推進していく。	B	授業改善については、各教員の取組の進捗や内容に違いがあることを踏まえ、校内での公開授業や授業改善に関する研修を計画的に実施し、教員同士が互いの実践から学び合い、刺激し合える研修体制の構築を図る。また、ICT機器の効果的な活用については、「ドリルパーク」等を含むAIDRILの活用方法に関する研修を充実させ、指導への効果的な位置付けについて理解を深めていく。
②	・学校評価の「学校は、学校行事(体育大会や修学旅行・校外学習等)や生徒会活動・委員会活動等を通して、子どもに自主・自立の力を付けている」の数値を向上させる。 ・講演会や体育大会、文化発表会等を実施する。	B	文化発表会や体育大会、合唱コンクールを実施し、生徒が主体的・自主的に活動に取り組む力の育成を図っている。	A	「学校は、学校行事(体育大会や修学旅行・校外学習等)や生徒会活動・委員会活動等を通して、子どもに自主・自立の力を付けている」という設問に対し、82.4%の生徒が前向きな評価を示しており、体験的な活動を通じた人間形成の取組が一定の成果を上げていることがうかがえる。	A	「学校は、学校行事(体育大会や修学旅行・校外学習等)や生徒会活動・委員会活動等を通して、子どもに自主・自立の力を付けている」という設問に対し、85.2%の保護者が肯定的に評価しており、本校の教育活動への理解と支持がうかがえる。	A	光明中学校の伝統を継承しつつ、文化発表会、体育大会、合唱コンクールといった学校行事を計画的に実施した。これらの行事では、生徒が主体的に意見を出し合い、仲間と協力しながら目標に向かって取り組む姿が多く見られた。行事を通して達成感や充実感を味わうとともに、自ら行動する力や責任感が育成され、生徒の主体性や自主性が十分に発揮される場となった。	A	集中症予防対策として、令和7年度の文化発表会は後半をオンライン配信で実施したが、体育館の空調工事が完了したことを受け、令和8年度からは対面での実施を計画している。学校行事は生徒が成功体験を積み重ねる機会となり、自尊感情の向上や学校生活を楽しむ意識の醸成に寄与していると考えられるため、今後も継続して実施していく。一方で、授業時数確保の観点から、行事内容については精選・効率化を図り、取組のスリム化を進めていく必要がある。
③	・命の講演会の実施する。 ・特別支援教育、通級指導、校内サポートルームの運営を円滑に進める。 ・「こころと生活等に関するアンケート」から表れる生徒の課題を職員で共有し、個人懇談や職員研修に役立てる。	B	6月を「命の月間」と位置付け、いのちの講演会を実施することで、性教育を含めた命の大切さについて考える機会を設けた。また、12月には「SQSの出し方講演会」を計画している。さらに、いじめアンケートや「ふれあいタイム」を定期的に実施し、生徒が肯定的に回答している。加えて、校内サポートルームの教室整備が完了し、本格的な運営を開始している。	A	「先生は、私たちに人権や命を大切にすることを大切に育てようとしている」という設問に対しては、83.1%の生徒が肯定的に回答しており、人権意識や生命尊重の指導について一定の評価が得られている。	A	「先生は、生徒に人権や命を大切にすることを大切に育てようとしている」という設問に対しては、74.5%の保護者から肯定的な回答が得られており、人権教育や生命尊重に関する取組について一定の評価が示されている。	A	6月の「命の月間」を中心に、生徒が互いの思いや考えを尊重し、すべての命を大切にすることを意識を高める取組を行った。講演会に加え、事前・事後学習を行うことで、学びが生徒の心により浸透するよう工夫した。また、いじめに関するアンケートを2回実施し、その後「ふれあいタイム」として教員と生徒の二者懇談を行い、生徒理解の深化と早期対応につなげた。	A	「命の月間」の取組を今後も継続し、命の尊さや大切さについて深く考える機会として、様々な講演会の実施や、いじめに関するアンケート調査、「ふれあいタイム」等を計画的に位置付けていく。これらの取組を通して、生徒一人ひとりの心身の状況や人間関係を的確に把握し、日常的な声かけや関わりを大切にしながら、組織として迅速かつ適切な対応を行い、生徒が安心して学校生活を送ることができるよう環境づくりに努めていく。
④	・コミュニティスクール(学校運営協議会と地域学校協働活動)の活動を推進する。 ・青年会と学校情報を共有する。 ・通信、ホームページ、X等による情報発信を進める。 ・地域活動に適度に参加する。	B	学校だよりや学年通信、学級通信を通して、学校の取組や生徒の様子について継続的な情報発信を行っている。また、ホームページやXを活用し、より幅広い層に向けた情報発信にも努めている。さらに、「花いっぱい運動」や保護者による家庭科授業支援などの取組を通して、地域とともにある学校づくりを推進している。	A	「学校は、通信やホームページなど様々な手段で、学校の様子や必要な情報を保護者に適切に発信している」という設問に対し、79.3%の保護者が肯定的に評価しており、情報発信について一定の理解が得られていることがうかがえる。	A	「学校は、通信やホームページなど様々な手段で、学校の様子や必要な情報を保護者に適切に発信している」という設問に対しては、79.3%の保護者が肯定的に評価しており、情報発信について一定の理解が得られていることがうかがえる。	A	学校だよりや学年通信、学級通信を通して、学校の取組や生徒の様子について継続的な情報発信を行った。また、ホームページやXを活用し、保護者や地域に向けて、より幅広い学校の教育活動を発信することに努めた。あわせて、学校運営協議会を年間4回開催し、学校運営や教育活動について協議を重ねるとともに、地域学校協働本部との協働活動を実施することで、地域と連携した学校づくりを推進した。	A	学校における生徒の学びの様子や教育活動の成果について、学校ホームページやX等を活用し、地域や保護者に向けて積極的に発信していく。また、学校運営協議会、地域学校協働本部、青年会がそれぞれの役割を生かしながら連携・協働できる体制づくりを進め、相互に情報を共有し、共通理解のもとで学校支援に取り組みする関係構築していく。引き続き、地域や保護者の協力を得ながら、地域とともにある学校づくりを推進していく。
⑤	・学校行事の精選を含めた年間行事予定を作成する。 ・ストレスチェックを活用し、教職員のメンタルヘルスに配慮した業務改善に取り組む。 ・週1回の定時退勤日を設ける。 ・教職員同志のコミュニケーションを大切に組織づくりを進める。	B	教職員に対してストレスチェックの実施を呼びかけ、心身の健康管理への意識向上を図っている。また、水曜日をノー残業デーに設定し、定時退勤の促進に取り組んでいる。さらに、授業時間の確保と教職員の働き方改革を総合的に捉え、学校行事の見直しを進めている。	B	アンケート項目には含まれていないものの、教職員の負担軽減や業務改善を図るため、働き方改革を進めている。	B	アンケート項目には含まれていないものの、教職員の負担軽減や業務改善を図るため、働き方改革を進めている。	B	教職員の働き方改革の一環として、学校行事の見直しを行った。また、教職員を対象としたストレスチェックの実施や、水曜日のノー残業デーの設定により、教職員が心身の健康を保ち、生き生きと生徒と向き合える時間の確保に努めた。さらに、教職員が互いに意見を言い合える風通しのよい集団となるよう、日常的な声掛けを積極的に行った。	B	水曜日をノー残業デーとして設定しているものの、依然として定時に帰宅できていない教員も見られることから、業務内容の見直しや役割分担の工夫など、さらなる業務のスリム化を計画的に進めていく必要がある。また、教職員一人ひとりの心身の健康状態を把握するため、ストレスチェックについても全教職員が確実に実施できるよう、継続的な声掛けや周知に努めている。